

柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会
《第五中学校区》

日時：令和6（2024）年4月6日（土）午前10時～11時30分

会場：中鯖石コミュニティーセンター

司会：皆さんおはようございます。本日はお忙しい中多くの方からご参加いただきまして大変ありがとうございます。ただいまから、柏崎刈羽原子力発電所再稼働に関する懇談会を始めさせていただきます。本日の進行を務めさせていただきます防災・原子力課長の吉原と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の懇談会の終了時間は午前11時半を予定しております。会議の円滑な進行にご協力くださいよろしくお願いいたします。会に先立ちまして皆様にお知らせとお願いがございます。会の途中、スタッフが写真撮影と録音をさせていただきます。写真は広報かしわざきや市のホームページに掲載するためでございます。録音は議事録を作成するために使用させていただきます。この点どうぞご了解いただければというふうに思います。また、報道機関による写真撮影等がございますので併せてご了解いただければというふうに思います。それでは初めに市長の櫻井雅浩よりご挨拶申し上げます。

市長：皆さんおはようございます。今日は原子力発電所の再稼働を巡る地域懇談会にお集まりいただきましてありがとうございました。この中鯖石コミセンといいますか、五中校区、高柳の皆さんも含めて、五中校区のこの地域懇談会で、いよいよ10ヶ所目となります。そして今日午後、北条中学校区で最後という形であります。ご承知のように柏崎市、11の中学校区があります。中学校区を中心に、地域懇談会、通常は7月に原子力発電所の問題のみならず、いろいろな地域の課題について地域懇談会をさせていただいたところでございますけれども、今回は、原子力発電所、もしくは原子力発電所の再稼働に絞った地域懇談会という形にさせていただいているところでございます。

今日はまず、今ほど課長の方から申し上げましたように、1時間半でございますが、30分、私の方で、私の原子力発電所、もしくは再生可能エネルギー、もしくは原発の再稼働に対する考え方をお話させていただきまして、後半の1時間で皆さんとの意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、よろしくどうぞよろしくお願いいたします。ちょっと準備がありますが、けれども、しばらくご覧、私の方をご注目賜りたいと思っております。

皆さんのお手元に2枚のプリントがあります。○・×・△と書いてあるプリント、それから、柏崎市（新潟県）2022年8月24日水曜日報道発表と書いてあるプリントでございます。基本的には○・×・△のプリントを中心にさせていただきますが、まずは私の原子力発電所、また再生可能エネルギー等に関する考え方を申し述べたいと思っておりますので、○・×・△の上の一番上の方にポツが2つあります。私は原子力発電所、現時点では重要であると、日本にとっても柏崎にとっても、意義があると、再稼働に意義があるというふうに考えております。

そして皆さんご承知のように私、今年で市長職を拝命して8年目になります。2回の市長選挙で勝たせていただいたということでございます。その前の2回は落選をしておるわけですが、しかし、市議員の当時から私の考え方は全く変わっておりません。ほとんどと言ったらいいでしょうか、変わっておりません。つまり、原子力発電所は、日本にとって柏崎にとって意義があると、そしてまた、原発をずっと続けるということを私は申し上げてきているわけではありません。再生可能エネルギー、具体的に申し上げるならば風力ですとか、太陽光ですとか、そういったものを柏崎の環境エネルギー産業として充実させていきたく

いというふうに、つまり、原発は徐々に確実に減らしながら、再生可能エネルギーも柏崎の産業にしていきたいということを申し上げております。

集中リスクの軽減、7つ原発がある。徐々に確実に減らしていくということも申し上げております。CN電力というのはカーボンニュートラル電力、原子力発電所のみならず、再生可能エネルギー、つまり、発電をする際にCO2を出さないこの電力についても、柏崎から発したいということでCN電力の供給の拠点化を目指しております。

以降、私の考え方をまとめたプリントがもう一つのプリント、報道発表と書いた、一昨年出したプリントでございますので、ここをまず読ませていただきます。ちょっとこれ以降座らせていただきますので、ご容赦ください。

まず、2022年8月24日、つまり一昨年の夏に出したコメントでございます。

なぜ私がコメントを出したかと申しますと、この8月24日に国、政府から、GX、グリーン・トランスフォーメーション実行会議で、これグリーン・トランスフォーメーションというのはどんなものかと申しますと、つまり、環境に配慮して、グリーン、環境に配慮した電気の作り方、また、環境に配慮した産業を日本として、国として育てていくということをまとめたものが、GX実行会議における方針でございました。その中に原子力発電所などの考え方も出てきましたので、私、つまり、柏崎市長としての考え方を記したところでございます。一つ一つ読み上げさせていただきます。早口になりますのでご容赦ください。

- ① 再稼働の方針に、改めて柏崎刈羽7、6号機の名前が含まれるとするならば必然。
- ② 国の方向性、「安全性の確保を大前提とした上での原子力の最大限活用」が示された以上、新潟県におかれましては、「3つの検証」について、行政手続法の観点からも、明確な結論を早期に出し、原発、再稼働問題の議論を始めて頂きたい。
- ③ 稼働標準期間を40年から60年に延長する方向性、検討も、日本のエネルギーセキュリティ、また、気候変動、地球温暖化を防ぐという原発の環境性能を考えても、海外の事例を勘案しても妥当
- ④ 原子力規制委員会による安全審査などに長期間を有している現状を鑑みると、40年の期間から、審査期間、柏崎刈羽のように中越沖地震などで止めざるを得なかった期間、つまり原子炉稼働により放射化されなかった期間を減ずるのが合理的ではないかと思うが、この点にもしっかりとした基準が求められる。
- ⑤ 私自身は1~7号機全ての再稼働は経済的にも、安全面からも合理的ではないと考える立場なので、従来申し上げているように東京電力には1号機~5号機の廃炉計画を出してもらいたいという考えに変化はない。もちろん、5つ全てを廃炉してもらいたいということではない。
- ⑥ アメリカ合衆国においても、1立地点で3、4の原子炉を有しているのが最高であり、福島事故を経験し、かつアメリカ、ヨーロッパ、中国などと比べても大規模地震が起きる確率がけた違いに大きい日本においてはエネルギーセキュリティ、環境性能を考えてもなお、原発は制約的であるべき、というのが私の考えである。
- ⑦ リプレイス、新增設の議論が出てくることは、ウクライナ情勢、エネルギー価格の高騰、経済、国民生活への影響を考えると、一般論として考えれば、これも自然な流れであると考え。
- ⑧ 柏崎刈羽原子力発電所の1立地点、柏崎市の市長として、この53年間原発賛成、反対と議論し続けてきた歴史に鑑みると、今、この時点でリプレイスだとか新增設などということは言える段階ではないと考える。

例えば、50年間言われ続けてきた「トイレ無きマンション論争」核燃料サイクルに明確な方向性、光が見えない。六ヶ所村の使用済み核燃料再処理施設は26回目の竣工延期である。日本が未だ先進国だとするならばあり得ない事態である。むつ市、青森県の苦悩を見るとき、原発立地点として、さあ、原発、どんどん行こう、等とは到底言えない。

柏崎刈羽の使用済み燃料プールは全体で約81%が埋まっている。再稼働を目指している7号機のもは約97%、6号機のもは約92%埋まっている。

⑨ バックエンド問題も、敢えて言うが、寿都町、神恵内村の「男気」に頼るようでは国のエネルギー政策とは言えない。

⑩ 本当に腰の据えた国民的議論を、早期に、そしてしっかりとしていただきたい。国の存亡をも占うエネルギー政策を「これを機会に」「やっつけ仕事」ではいけない。

納得がいく議論がなされ、結果が出されたとするならば、国がこれまで以上に、原発の科学的、合理的安全の確保を行い、住民が安心、かつ豊かな生活を享受できるような施策展開、原発の集中リスクの軽減、洋上風力発電の海底直流送電など再生可能エネルギー供給計画への柏崎市の参画等を担保していただけるならば、柏崎市はこれまで以上に国のGX、エネルギー政策の一端を担う覚悟はある。

というコメントを1年半ほど前、一昨年8月24日に出したところでございます。今でも市のホームページには、このコメントは掲載をされております。

さて、なぜ私がこのように考えるかということでございます。○・×・△の方に後は目をお受けください。

事実関係、まず、福島事故における補償、廃炉、復興などに関する経費が23兆4000億円かかると言われております。これは一昨年まで21兆9000億円というふうと言われておりましたけれども、それがやはり、もっとかかるだろうということで、現在のところ、23兆4000億円かかると言われています。これを賄うためには、つまり、福島の復興、補償そして廃炉、お金がかかります、これだけのお金がかかります。

これを賄うためには、本当に矛盾した話ですけれども、原子力発電所の事故を起こした東京電力に稼いでもらわないと、つまり、原子力発電所を再稼働することによって、東京電力が、利益を上げ、そしてこの福島の復興、廃炉、補償をするために、ということが一つ意義があるという理由でございまして、本当に矛盾しています。

これは別の会場で、市長に失望したと、東電を儲けさせるために再稼働させるのかというふうなことをおっしゃった方がいらっしゃいました。しかし、今ほど申し上げたように、違います。私は、福島の復興、補償、廃炉、こういったものをお金がかかると、これを東京電力自らがその責任を担ってもらうためには、矛盾している話だけれども、一つ原子力発電所が、100万kWクラスの原子力発電所が動くならば、1年間で1100億円利益が出ると言われています。そういった、矛盾していますけれども、東京電力が自ら稼ぐことによって自らの責任を果たす、つまり、福島の復興等に責任を果たすという意味で、原子力発電所の再稼働の意義があるというふうに申し上げているところでございます。

次、電源構成、裏の方をご覧ください。○・×・△の今ご覧いただいているプリント裏でございまして、これは一番上に書いてあるのが、円グラフでございまして、円グラフ、これは日本の2023年、去年かな、日本の電源構成といたしまして、どうやって電気を作り上げているかということの円グラフでございまして。

石炭によるもの、石炭火力が27.8%、LNGというのは液化天然ガス、天然ガスを燃やすことによって電気を作る、火力発電、29.9%、石油3.0%、その他火力、全部足し算をしますと、約7割、つまり日本の電気は、今こうやってマイクを使っていますし、プロジェクターで映していますが、この電気は東北電力の電気でありますけれども、これは日本の場合、今現在、7割が火力発電によって作られた電気です。ご承知のように火力発電ということは、CO2をどんどんどんどん出しています。

他の国はどうやっているかということで、下の帯グラフを見てください。上から中国、アメリカ、続いています。日本は、これは2021年の電源構成でございまして、2021年というのは、ウクライナの事案が起こる前の年でございまして。この後、さらに日本は残念ながら、火力発電、お金のかかる、エネルギー価格が高騰する中、火力発電にシフトしていくというこ

とでございます。そして、この日本の 31、3.7、34.6 という足し算しますと先ほど申し上げましたように、ほぼ 7 割ぐらいになっているわけでございますが、しかし、中国、ご覧いただきますと一番上、63.3 が石炭火力、そしてその次が 0.1 が石油による火力、天然ガスによる火力が 3.1。残念ながら、お恥ずかしながら、中国よりも日本の方が火力発電によって電気を作っている割合が多いということでございます。

よく、中国の酸性雨、酸性雨というふうに私達、言いますけれども、中国の今の現状では、日本の方が電気を作るのは火力発電によるという、その割合が中国よりも大きいということになります。日本より大きいのをご覧いただいているように、インドです。あと、アメリカよりも、ロシアよりも、日本の方が火力発電による電気を作る割合が大きいということでございます。つまりこれはどんどんどんどん CO2 を出している、何度も申し上げていますが、出しているということです。

下の方、ついでですので、電気料金のことも申し上げておきます。これは去年の電気料金、日本列島が書いてあります。私達、東北電力管内では、7833 円、標準的に、関西電力は 5236 円。なぜ関西電力の方が安いのか、関西電力は福井の原子力発電所をかしているからです。書いてありませんけれども、九州電力も東北電力よりも安いです。九州電力も原子力発電所を動かしているからです。エネルギー価格が高騰している中、原子力発電所は一定程度、安い、安価な電気を作り出すことができるということの証明でございます。

右側の囲みをご覧ください。東北電力 65 万 5170 円、関西電力 53 万 1780 円。左側の日本列島の地図の部分には家庭用の電気料金ですが、右側の方はこれ、産業用の業務用の電気料金の比較でございます。業務用の電気料金の比較でございます。このように、やはり業務用においても 2 割ほど、東北電力管内が高いということです。

日本は製造業を中心とした産業構造が日本の主なところでございます。物を作るためには電気が必要です。エネルギーが必要です。そのエネルギーコストがこれだけ高くなっているということは残念ながら、産業競争力を落とす結果になっております。

また、表の方をご覧ください。とは言っても、福島事故の後、また、能登半島の地震を見れば、おっかねえねっかと、あれだけ亡くなっているじゃないか、人が、ということですが、黄色いアンダーラインのところ、これは定期的に、福島事故、つまり 2011 年の事故以降、国連の科学委員会が定期的に報告書を出しているところの、文書でございます。

福島県民の健康被害で、事故による放射線被ばくに直接起因すると思われるものは記録されていない。母親の胎内で被ばくした子供を含む小児については、甲状腺がん以外の放射線の影響、白血病その他、見られそうにない、予想されないというのが国連の科学委員会の調査によって報告をされております。1 回やっただけではありません。定期的に 2011 年の事故以降、定期的に行われた、この直近が 2020 年、21 年の報告書ということ。こちらの方にご覧いただきたいと思っております。これが、UNSCEAR (アンスケア) と言われるところに国連の科学委員会の報告書の原文でございます。

電気料金のことは先ほど申し上げました。能登半島の地震、あれだけ家が潰れて、みんな犠牲になったじゃないかと。能登半島におけるつまり、石川県における一般的な住宅の耐震化率は、残念ながら 46% から高いところでも 64% ございました。柏崎市は 89% です。これは中越地震、中越沖地震を経験して、耐震化を皆さんが進められた結果だと思っています。私、石川県の全ての自治体、市町村の耐震化率を全て調べました。原発がある志賀町を中心に PAZ、UPZ を全部調べました。中には、耐震化率が出ていないほど、出されていないほど低いところもあります。それが残念ながら映像に見るような、軒並み自宅が倒れて、残念ながら道路を埋めてしまっという状況になったと思われま。柏崎市は 89%、お隣の長岡市も 90%、お隣の上越市も 87% でございます。道路も同様でございます。このポイント

ト、つまり石川県よりも30ポイントも40ポイントも耐震化率が高いのが柏崎を含めて、新潟県の状況でございます。能登半島地震における状況と、新潟県における状況はかなりベースが違うということをご理解いただきたいと思えます。

それから、割れ残り断層があって、津波が出てくるだろうと言われていますが、ちょっと今、出しますけれども、ここは鯖石、五中校区はそんなに、そんなにという心配をしなくていいところですけども、これをご覧ください。今、こちらよりもこちらの方がいいかな、こちらの方がいいですかね。どっちでもいい、こっちの方がわかりやすいか。今、皆様のご自宅に、こういう防災ガイドブック自然災害編というのは皆様のお宅にあると思えますけど、その中の1ページです。

能登半島の地震の中で、佐渡ヶ島と能登半島の間には割れ残り断層といったものがある、その割れ残り断層がもう1回動いて地震が起こると、3mの津波が柏崎の方には来ると、新潟県の方には来ると言われています。能登半島地震の割れ残り断層で。

このシミュレーションは、新潟県が既に3年ほど前に行ったシミュレーションですが、皆様のご自宅にある防災ガイドブックにある地図ですが、皆様の地域には、皆様の地域は、この自然災害編には出ていません。なぜならば、津波の心配はないからです、距離も離れていますし。これ中央海岸ですが、色がついているところが、津波が来るだろうという予測範囲です。残念ながら、海の大花火大会の会場、ここまでが、津波が来るということです。それも、今回の能登半島地震の割れ残り断層による津波の心配は3mだと言われていますが、新潟県はさらにその前に、これは津波の予測水位を4.9mつまり、今の3mよりもさらにもっと厳しい、もし4.9m、5m近い津波が来たとしても、ここでとどまるということです。つまり、住宅地、私の家もこの辺にありますけれども、住宅地には津波は来ないというのが、新潟県によるシミュレーション。今回の能登半島地震による割れ残り断層による津波が3メートルが来ると言われて、それよりも厳しい4.9mの想定をしても来ないというのが、今の実情でございます。

そういったことで、この地域も含めて、柏崎市においては99%、津波の浸水は予想されないということです。残り1%どこなんだということですが、具体的な町名は申しませんが、もちろんその町内の方々にはご認識いただいておりますけど、海岸部分で、西の方、海岸部分1%の方々は、当然皆さんにもそれお伝えしてありますし、いざというときはこういうところ、避難してくださいよということもお話しています。これが柏崎における、もしくは能登半島の割れ残り断層による心配に対する答えでございます。

そして、その下、東北電力、宮城県女川原子力発電所、令和6年、つまり、今年9月に再稼働の予定と書いてございます。これはどういうことかと申しますと、ご承知のように、先ほどから申し上げているように、私達は基本的に東北電力の電気を受けています、使っています。そしてその東北電力の女川原子力発電所が今年9月、再稼働する予定でございます。女川は、皆様ご承知のように、東日本大震災で、町ごと大きな津波による被害を受けて、確か800人を、人口1万人の町でしたけども、800人も800人以上の死傷者、また、行方不明者を出した自治体です。被災率といいますけれども、災害を受けた率、東日本大震災の中で一番高いというふうに使われています、女川町。その女川町にある原子力発電所が、この9月に動き始めます。東日本大震災のときも、女川の原子力発電所はほぼ無傷でした。女川町の方々が原発の構内に避難しました。そしてこの女川の原子力発電所の再稼働に当たっては、宮城県の知事、女川の町長、そして石巻の市長さんは既に地元了解をしています。私達にあるのは東京電力です。よく、東京の使う電力を、東京の人間が使う電力を、何で俺たちが今おっかねえ目をして動かすのを認めなきゃ駄目なんだという議論があります。同様に、女川の方々、宮城の方々から見れば、何で新潟県が使う電力を、当然、何で原発が動き始めれば、新潟県私達にも流れてきますので、なんで新潟が使う電力を俺たちが、また、これだけ地震のときに大きな被害を受けた女川の私達がリスクを冒して、原発を動かさなきゃ

駄目なんだという議論は、残念ながら伝わってきていません。既に女川町の町長も石巻の市長も、宮城県の知事も再稼働させることに事前了解は終わっています。

それから、東京電力の原子力本部、これだけの大きな被害をもたらした東京電力の原子力本部が、そのこの福島事故の反省、そしてまた、自覚、そしてこれから柏崎刈羽で動かそうという責任を、その覚悟を示すということに私は解釈していますが、東電の本社の原子力本部300人が柏崎に来ます。柏崎で生活をしながら、200人はエネルギーホール、駅前のエネルギーホールを新しく建て替えて、200人はエネルギーホールのところで勤務します。100人は、サイト内で、原発のサイト内で働きます。これは私は東京電力の責任人を担う、覚悟をするというところを見せるものだというふうに私は評価をするところでございます。もちろんその結果、300人が新たに柏崎で生活していただけるわけですので、経済的な効果というものもちろん、あります。

あと一番下、○×表をご覧ください。全部プリントは全部、私が自分で作ったんですけども、○×先ほどから申し上げていますように、資源小国におけるエネルギーセキュリティ、日本はエネルギー源がありません。やはり、原子力で安定的なエネルギーを生み出していかねばいけないだろうというふうに考えています。気候変動、地球温暖化防止、今、残念ながら、先ほど申し上げましたように、今ご覧いただいているのは、別の表にしたエネルギー構成です。残念ながら、再エネの部分はまだ、22%しかありません。再エネというのは太陽光や風力の部分です。天然ガス、石油、石炭の部分で、残念ながらCO2をどんどんどんどん出しながら作って、電気を作っているという状況は、やはり好ましいものではない。

それから、今、サイト内には5000人から6000の方が働いていらっしゃる。うち54%つまり3000人ほどが柏崎の方です。県内の出身者は79%、約8割です。それから、動き始めるならば、13ヶ月に1回、2ヶ月ほどの定期点検が行われます。このときにも数千人規模で働く方が必要となります。電気料金の軽減がされています。皆さんのご家庭も、多分、1万8912円が振り込まれていると思います。これは原子力発電所があることによって、皆さんの家庭用の電気料金の軽減部分です、1年間。私は原発反対なんだから、こんなもんいらんと言って拒否されている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、概ねのご家庭には1万8912円が振り込まれていると思います。それから、国からいただく交付金、固定資産税等の地方自治体、つまり柏崎市における財政的なメリットもございます。そして何よりも1888年、日本石油が柏崎の地で発祥し、石油産業によって日本の経済成長を支え、そしてまた、55年前に原子力発電所によって、電気によって日本の経済を支えてきたというエネルギー都市としての自負、誇りがあります。もちろん、そんなもの逆だという人もいらっしゃるだろうと思うので、○の下にも△をつけておきました。

×は、福島事故、広島・長崎原子爆弾の被害イメージ、使用済み核燃料の最終処分、バックエンド決まっていません。先ほど申し上げたように、新潟地震、中越、中越沖、能登半島地震、地震大国です。テロの標的になりうる、その可能性もあります。悪天候、雪、風、そして何よりも原発賛成だ、反対だと市を二分してきた、今日この会場も含めて。こういった55年の歴史は×じゃないかなと思います。

そういったように、今ほど申し上げましたように、私自身は、繰り返しになりますが、今の時点では、日本においても、柏崎においても、原子力発電所は再稼働は意義がある。しかし徐々に確実に減らしながら、私は再生可能エネルギー、皆さんの近く、この近くでもないんですけども、平井、平井では、来年の7月から、水素による水素発電が日本で初めて商業的なものとして始まります。今日午後何う北条の西長島、そして鯨波には、太陽光発電を市が造り、既に稼働しています。風力発電への取り組みも、国の取り組みに協力し、参画したいというふうに考えています。

これが私の原子力発電所、また原子力発電所に対する考え、再稼働に対する考え方、そしてその理由でございます。あとは、皆さんからのご質問やご意見を承りたいと思います。

司会：はい。それではこれからは参加されている皆様からご質問ご意見の方をお受けしたいというふうに思っております。多くの方からご質問を受けたいというふうに思っておりますので、お1人様1問ということでお願いをしたいというふうに思っております。また、他会場でご質問された方につきましては、地元の方の優先発言ということでご協力の方をよろしくお願ひしたいというふうに思っております。ご発言をいただく際には、挙手をいただきましてスタッフがマイクをお持ちさせていただきます。町名とお名前をおっしゃってからお話くださいますようよろしくお願ひいたします。それではいかがでございましょうか。はい。一番前の方。今、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：すいません、〈町名〉の〈名前〉といいます。本日は市長さんから、足を運んでいただき、市長としての・・・

司会：マイクを近づけてお話をくださいますよう、よろしくお願ひします。

質問者：はい、市長としてのお考えを伺って、また懇談会を作っていたいただいて本当にありがたいというふうに思っています。先般、規制委員会から、運転の禁止命令を解除したというふうになって、今、国とか県とか市はその運転の方向で一直線こうね、進んでいます。そういう一方で、住民も少し、少し何か不安になってきているそんなような様子も感じています。二つの視点でお願いしたいなということでもあります。

実は昨日、本日の懇談会があるというようなことで、昨日、一家で市長さんに質問、どういふのをしようかなというような話し合いをしました。したら、うちのおばあちゃんがそういえば13年前の福島の人たち、今頃、今、どうしてっかのというような、そんなような話をしました。今、福島の人なんか新潟県の方に、あの1800人ぐらい避難していて、この市内も、400人ぐらいの人が避難しているというふうに聞いていますけども、そういうような福島の人にどういふような支援とか配慮とかしているのかなというのを、情報として教えていただきたいなというふうに思っています。

それから、二つ目ですけども、今から30年前ほど自分は原発の近くで仕事をしていました。その当時、もうこの原発はどんな大きな地震があっても、どんな大きな災害があっても絶対大丈夫だというようなそういうような安全神話がありまして、自分もそう、あの信じてきました。しかし、13年前にああいうような事故があって、本当にこの大きな、大きなショックを受けています。その13年過ぎた今でも、福島その原発の廃炉が思うようになんか進んでいないというような、そういうような情報も聞いたりしてまして、そのやっばり、人間が作ったものはどんなにしっかりやっても、完璧はないんだなというような、そんなような思いをしています。今、本当に一生懸命に事故の訓練等もやっていて、事故があった場合には、しっかりと対応するというふうに言われていますが、その重大な事故とはどういふような事故を想定しているのかなというのを二つ目の質問でお願いしたいなというふうに思っています。以上です。

市長：はい、ありがとうございました。まず、ご質問、福島から、今、ご覧いただいているのは、避難区域、つまり、福島において、現在、それぞれどれぐらいの方が戻っていらっしゃるかということでございます。例えば、柏崎市とずっと支援をさせていただいた双葉町、つまり柏崎市の職員を双葉町に派遣をしておりました、昨年まで。そして双葉町の復興を応援してまいりました。その双葉町はご覧ください、真ん中辺、かつては5527人というごめんなさい、住民登録は5527人という形になってはいますが、実は実際に住んでいらっしゃる方の割合は1.7%しかいらっしゃらないということです。ほとんど戻っていらっしゃら

ないということでございます。これは実態です。もちろん、85%、田村市は85%の方が戻ってらっしゃるといことになります。

そして、柏崎市にお越しになってらっしゃる方々への支援でございますが、いろいろなご支援をさせていただいていますが、また相談や、そしてまた、定期的に私ども市の職員、また、委託をしている業者さんにご訪問、訪問させていただいて、お困りごとはないでしょうかというようなことも含めて、今、柏崎市に避難していらっしゃる方々へは、そういうふうなお手伝いをさせていただいております。

それから、事故はどういうことが心配なのかということでございますが、これも田中先生、田中俊一先生、前の原子力規制委員会初代の委員長でございますが、この部分は、今の避難にも関係しているわけですが、残念ながら、先ほど申し上げましたように、放射線被ばく、原子力発電所の水素爆発が起こったわけですが、爆発事故による放射線被ばくによる亡くなった方はゼロです。

しかし、残念ながら、避難をすることによって、間接的なというふうに言いますけれども、避難する中で、無理な避難をしてしまった、急ぎ避難をしてしまったということで、関連死という形で非常に多くなっている。これが実際に亡くなられた方、今ご覧いただいているのは、福島事故の関連死の数字でございます。つまり、原子力発電所、放射線被ばくによる亡くなった方はゼロですけれども、無理に急いで避難してしまった。その結果ということで関連死がこれだけ多くなってしまったというのが実態であります。

実際に多くの方が東日本大震災で亡くなったわけですが、亡くなった原因は何かといえ、90%以上は津波による溺死でございます。溺れて亡くなってしまった。そして今回の能登半島地震による亡くなった方の多くは圧死でございます。先ほど申し上げたように、耐震化率が低い住宅に住んでいらっしゃった方が、ご自宅が潰れてしまった。それによる圧死が原因でございます。以上でございます。

司会：〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他の方、いかがでございますでしょうか。はい、今、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。よろしく申し上げます。市長さんは、条件付きの再稼働というお考えじゃないかなと思うんですけども、県とも一緒に国に要望した5つの何か内容があったと思うんですが、その内容と、具体的な進捗状況、進み具合ってというのはどうなっているのかなと、そんなところをお聞かせいただきたいと思っております。

市長：はい。ちょっと拡大しましょうかね。これで説明させていただきます。5つ、確かに昨年、花角知事、それから隣の品田村長、私で国に対して要請した、誰に対して要請したかと、国の内閣府の原子力防災を担当する大臣に、知事と村長と私で要望しました。5つ、原子力災害時が起こった際に避難を円滑にするために、これが必要ですよという5つです。一つは、この地図にあります……とちょっと見え、ちょっと小さくて申し訳ありません。これは何かと申しますと、8号線のバイパスです、バイパスです。長崎、長崎新田から鯨波に至るバイパスです。この場合、今は茨目から鯨波までが開通しています。茨目から鯨波までが開通しました、一昨年。それを早く116、ここの長崎の方からしっかりとね、鯨波まで全部繋げてもらいたいと。8号線バイパスをもう30年もやっていますが、一刻も早く開通させてもらいたいというのが1つ目です。つまり、原発から5キロ圏内の方々が、多くは糸魚川、上越、妙高の方に避難することになっています。そのためにはこのバイパスが一刻も早く開通することが必要ですということが1つ目。2つ目は、ここに皆さんご承知の米山大橋があります。8号線にかかっています。米山大橋は全国で唯一、一つだけです、唯一、強風で、止まる、通行止めになりますよという、強風の際は通行止めになりますよという、全国で唯一の橋です。そして、可能性として、強風で通行止めになったとすると、先ほど申し上げたように柏崎市民8万、7万7000人になっちゃった

んですけど、その内の6万人ほどが、上越、糸魚川、妙高の方に避難することに。つまり、柏崎市民の4分の3、75%が、こちらの方に避難しなきゃいけないのに8号線、米山大橋が通れなかったら、向こうに行くことができないわけです。ですので、米山インターチェンジを米山大橋の手前に持ってきてもらいたい。もしくは、ここにサービスエリアがありますけれども、米山大橋の手前から、サービスエリアに直接、緊急進入路、いざというときに入って、高速道路に乗れるようにしてもらいたいという要望が2つ目。

3つ目は、同じように上越、糸魚川の方に避難していくためには、8号線も止まったり、高速道路も止まったりすると行けない訳です。一昨年、実際に大雪で止まりました。8号線38時間、高速道路51時間止まってしまったわけです。そのために、皆さん、ちょっと遠いからあれですけども、野田の方、小村峠を通過して上越の方に行く道があります。県道です。これは今も通行止めです。冬期間は通行止めですので、ここに小村峠にトンネルを開けてもらいたい、というふうな要望をしました。これが3つ目。

そして4つ目、今ここにありますが、今度はこちら曾地峠に向かうこの高速道路、ここにスマートインターを作ってもらいたいといったこと、それからこの上方、上方にもスマートインターを作ってもらいたいということです。上方のスマートインター、そしてこの曾地のスマートインター、合わせて、全部合わせて5つの要望をしました。

俺たちあんまり関係ねえねっかと言われるかもしれませんが、既に3年前に、今日いらっしゃらないのかな、地元の阿部基議員さんも含めて地元からのご要望で、この山根橋、郵便局のところ、クランクだねっかという、自動車学校ではあるまいし、直角に向かって直角に曲がっている山根橋、これを前の内閣府の原子力防災大臣に、実際に大臣にここを見ていただいて、ここを何とかしてくださいというふうに要望しましたら、既にこのクランクの解消に関しては、252のクランクの解消、南鯖石郵便局の前、あそこに関しては、既にもう事業費がついて、このクランクを解消するという形になっています。つまり皆さんが、こっちの方に避難するときにクランクがあると、大型車両が通れないわけです。ということでこのクランクを解消するという動きはもうこれは既にもう事業化して設計が始まっているというふうにご理解いただきたいと思っています。

それから進捗状況でございますが、そう遅くない段階で、国からは、今申し上げた5つ、山根橋はもう済んでいますので、5つの要望は、ほぼ満額回答に近い形で国からお返事をいただけるだろうというふうに期待しておりますし、確信をしております。かなりの確率で、大事業です。これ全部合わせますと、数百億円の事業費になるだろうと思います。その事業費は確保していただけるだろうというふうに考えております。

司会：〈名前〉様、大変ありがとうございました。他の方がいかがでございましょうか。はい、今、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：座ったままで申し訳ありません。高田地区の方に参加できなかったのも、〈町名〉から参りました〈名前〉と申します。よろしく願いいたします。私の質問なんですけども、ちょっと違った視点になるかと思えます。市長さんの報道発表されたコメントの中の内容は概ね私も考えが一緒です。特に⑩番のところはおっしゃっていることはよくわかります。環境問題、地球の温暖化、エネルギー政策とでもどれも大事なもののなので、これは本当によくわかる内容でした。ただもう一つ書いてある○・×・△の方の内容に関しましては、私は完全な反対派でも積極派でもないんですけども、この内容に関しましてはツッコミどころ満載なので、例えば、3メートル、6メートルって言われても、それ以上になったらどうなるのか、に代表されるような、これは本当に突っ込みどころ満載で、今ここでいうと長くなってしまうのでいいせんけれども、反対側にある、その主要国の電源別の発電電力量の構成比の中に、北欧が入ってないですね。デンマークですとか、フィンランド、この国が入ってないのはなぜなのか。私30年くらい前、昔から環境問題には大変興味がある、エネルギー問題にも大変興味がある人間なんですけれども、その学習のためにイギリスや北欧

も行ってみました。20数年前、デンマークの人魚姫の後ろには風力発電の風車がたくさん回っていました。あれを見る限り北欧がどうなっているのかを知りたいと思いますので、ここに北欧が入っていないのは何故なのかを教えてくださいたいと思います。

それからもう一つ、海の問題が全く取り上げられないんですけども、今、海の海流は地球を冷やしていると言われていていますよね。なので、深層に入っている海の海流が流れることによって温暖化のブレーキ役にもなっているはずですが、危ないと言われていています。もしかしたら、あの海流の地球のクーラーを務めている温暖化を止めている海流がなくなってしまうと、爆発的に地球の温度が上がってしまうと言われていています。

日本の温暖化は、地球の温暖化よりも2倍のスピードで進んでいると言われていています。また、日本の周りがある海水温なんですけれども、もちろん上がっていますけれども、どこが一番上がっているかっていうことを調べたら、新潟県の上、新潟県の海流の上、山形県に上がっているところが一番海水温が上がっています。数年前、すごく雨がすごかった時期、それから雪で止まった年もあったと思いますけれどもあの日私は海水温を調べました。新潟県の周りの海水温がすごく上がっていました。ということは、これから電力っていうか、発電所を動かすと、海で冷やしますので、海の温度が上がります。もっと上昇気流が上がって、もっと雨が降ります。雪も重たくなります。うちの近所の崖は、ここ最近、崩れやすくなっています。なので海の問題、それから地球全体の問題、人間は人間だけできているのではなくて、海があって、空があって、動物がいて、植物があって生きているので、人間だけの問題ではなくて、地域全体として、大丈夫なのかっていうことも、原発なんて無きにこした方がいいと思いますし、そういうものもなしで暮らせれば良いと思うんですけども、そうはいかないので、おっしゃることはよくわかります。

ただ、この海の問題もちょっと調べて、稼働したらどうなるのか、どのくらい上がって、どういう影響があるのかも調べていただければと思います。また、国は国策としてこれを進めていますので、多分、回答は肯定的な回答になってくるんじゃないかなと思いますけれども、それを100%信じることはできないと思っている国民がいることも心に留めておいていただければと思います。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。ご質問二つあったと思います。北欧の電源構成はどうなっているのかということと、それから海水温の上昇を含めて気候変動に対するご心配を含めたご質問でございます。

ちょっと待ってください。これはドイツだな。ちょっと待ってください。ちなみにドイツが出ましたので、ドイツはご承知のように原発やめましたよね、やめました。やめました、今、風力が、右側の方です。風力が20%、太陽光が7.4、6バイオマス、水力、天然ガスという形になっていますが、原発はこれ12%ありますけれどもこれは原発を止める前の段階でございます。これが今のドイツ2023年、今年のドイツです。風力が22%、洋上の風力が4%、水力が8、バイオマスが8.5、太陽光が11.9、そして、ご覧いただいて、映っていると思いますが、原発は1.4になりました、去年は。しかし今はこれ0になっています。何が大変かという、ドイツは化石燃料です。石炭がたくさん出ますと、石炭火力です。火力の中でもCO2排出が一番多い最悪の火力発電です、石炭火力は。ドイツはほぼ半分が石炭火力によって、電気を作られて。

北欧、デンマークはないんですけども、これはスウェーデンです。スウェーデンは、原子力が38%、水力が40%、風力が12%という割合です。これは2020年のデータです。実はスウェーデンは、1980年、今から44年前に、国民投票しました、原子力発電所をどうするか。そして国民投票の結果、スウェーデンは原発を全部止めようという決定をしました。その後、私は1996年、7年ぐらい、スウェーデンに行きました。実際に国民投票で全部やめると言うけれども、実際どうなんだろう、というふうなことを見に行きました。そして使用済み核燃料の予定地も見に行きました。しかし、その当てもそうですし、2020年になっても、今もそうですけど、スウェーデンはまだ原発を使い続けています。そして、1980年の国民

投票の決定はありますけども、スウェーデンは昨年、新しい原子力発電所を作るということを決めました。なぜならば、福島事故を経ても、チェルノブイリも経ても、スリーマイルを経ても、残念ながら、気候変動、温暖化を防ぐためには、原子力を動かす、電気を作るということが、スウェーデンにとってプラスであるという形で、国民投票の結果は結果としながらも原子力を使う、そして新しいものを作るということです。

ちなみに、デンマーク、フィンランドは、フィンランドの原発がありますが、デンマークは4割が火力発電所です。4割が再生可能エネルギーです。そのうち4割のうちの27%か8%ぐらいがおっしゃったように風力発電です。デンマークは風力発電のメーカーがあります。残りは、確か4割のうちの12、3%は確かバイオマスだったはずですが、森林がありますので、バイオマスのチップのバイオマス発電です。つまり4割、デンマークは4割は火力発電、4割は再生可能エネルギー等になるかというふうに思っています。

それから、海流の問題ですけれども、結論を申し上げますと、原子力発電所が動いて排水をする、温排水の部分で、気候変動に影響をもたらすような海水温の影響はないだろうというふうにデータはそれで出ております。ただ、原発が稼働しているか、稼働していないかは別として、ご承知のように、去年は38度の高温を柏崎もあったわけですが、そして、お米も取れなかったのは皆さんご承知の通りです。こういった異常気象、異常高温がずっと続いています。62になりますけど来月、私も、私達が皆さんの子供の頃、夏の暑いときは30℃がいいとこでした。38℃なんて考えられなかったわけですが、こういった異常高温が、もちろん海水温も変化させています。これは私も本当に心配しています。以上でございます。

司会：〈質問者〉様、大変ありがとうございました。他の方がいかがでございましょうか。はい、今、マイクをお持ちしますんでお待ちください。

質問者：〈町名〉の〈名前〉と申します。まず、先ほど避難計画について、国への要望、ほぼ満額で回答されるのではないかとこのお答えでしたけれども、それは期待ではありましようけども、確定したわけではありません。ですから、再稼働の論議をするならば、それが確定してからではないか。また、実際に工事が完了してから、再稼働の論議をするべきではないかというふうに思います。そして、市長と東電のやり取りの中で、市長は、再稼働を認める、廃炉を前提にして、再稼働を認めるというお考えだったと思うんですが、東電の回答としては、再稼働が実現した暁には、廃炉を検討するという答えだったのではないかと。つまり、廃炉、何号機を廃炉にするという回答ではなくて、廃炉を検討するという回答だったのではないかと記憶しております。その言い方で言うならば、その避難経路が確実にできてから、再稼働を検討するというべきではないかというふうに思っております。

それから市長のあの2022年のコメントの裏側の2行目、例えばから日本が未だ先進国だとするならば、あり得ない事態であると、ここまではおっしゃる通りだと思います。あり得ない事態です。ですから、こういう段階で、なおかつ、原発を動かそうとしているのは誤りではないのかというふうに思っています。

核燃料サイクルは未だ動いていない、燃料プールも満杯に近い、それから廃棄物の処理も未だ決まっていないというか、そういう状況です。つまり、原子力政策というのは、全て、今のために未来に付け先送りする政策ではないかなというふうに考えておりますので、再稼働を議論するのは、ちょっと待っていただきたいというのが私の意見であります。以上です。

市長：はい、ありがとうございました。まず、知事と村長とともに、国に大臣に要望したけれども、その要望が実現してから再稼働させるべきじゃないかというようなご意見も含めてだったと思います。もちろん厳密に言えば、そちらの方が望ましいわけですが、望ましい。それから、私も書きましたけれども、核燃料サイクルに目途が付いていない、この部分に関しては少し動きました。ご承知のように、この前、むつにある一時貯蔵施設がこの7月頃から

起動するという形になりますので、柏崎にある使用済み核燃料は、むつの方に一時保管施設の方に動き始めるということで、少しだけですけども、動き始めています。これは事実です。

そういった中で、先ほど申し上げていますように、ずっと申し上げていますけども、世の中に完璧なものってのはないわけです。良いこともあれば、悪いこともあります。再生可能エネルギーにも良い点があります。CO2を出さない。しかし、安定しないという悪い点もあります。原発もプラス、マイナス先ほど書いたように、両方あるわけです。同じように完璧にできてからじゃなきゃ駄目だって話になると、先ほどお話ししたように、今、日本はCO2を出しながら電気を作っているわけです。CO2対策ができるまで、私達は電気を使わないで耐えられるかと、それは無理です。同じように、これだけ電気に囲まれて、電化製品に囲まれている私達の生活を、一方では、CO2をどんどんどんどん出しながらということを考えて、それからエネルギー価格がどんどんどんどん高騰している中で、日本の産業構造を考えたときに、CO2を出して高い電気を使わざるを得ないような日本が、さあ、どうしたらいいんだろうかということを考えるときに、今、完璧なものではないし、方向性が見え始めただけではありますけれども、同様にCO2対策も方向性が見え始めた段階ではありますけれども、私は再稼働はやはり意義があると思うところがございます。全てのものできてから、ようやく、という話になったら物事、原発だけではなくて、何も物は進みません。そう思うところがございます。

司会者：はい。〈質問者〉さん、ありがとうございます。他の方はいかがでしょうか。先ほどから手を挙げられている方。

質問者：〈町名〉の〈名前〉です。今日、私が市長にお伝えしたいことは二つあります。13年前にあの事故が起きて、浪江町から避難されてきた皆さん、その中にはもちろん子供もいました。その時に、あるお母さんから聞いた言葉が私は忘れられません。避難の、避難をするようにも言われず、右も左もわからず、爆発したらしいということだけ聞いて、とにかく車の窓を閉め、流れ流れ、避難した先が柏崎だったと。そして柏崎で福島からの避難ですということで、線量計をかざされたときに、その体は線量計が振り切れていたと。そしてその、今すぐ、その着ている服、シャツ、全て脱いで捨ててくださいと言われてたんですけど、それはもちろん子供です。そのシャツを脱ぎ捨てたとしても、その体は捨てることはできません。今もう13年経っても、そのお子さんたちもお母さんたちも暮らしていらっしゃいます。市長が用意していただいたあの国連の、すいません、国連科学委員会の資料には、被ばくした子供や小児、成人の甲状腺のがんの被害は報告はないとおっしゃいました。けれども、これを信じる信じないとかそういう話ではなくて、もし仮に私が同じ状況になったとして、自らも被ばくし、自分の子供も被ばくしたときに、この不安を一生、抱えたまま生涯を過ごす、そういう思いをしたお母さんたちと数年間ですけども私は一緒に生活したときに、どんなに故郷が復興されようと、もしこの廃炉が進んだとしても、その体も戻らなければ、その心も戻らないですよ、私はそんな思いしたくありません。あとちょっと話は戻るんですけども、この今回のこの懇談会は、第1にこの私達の意見を聞いたとしても、櫻井市長の考えは変わることはないし、この再稼働については変わることはないというふうにお聞きしています。だけれども、その中で私の質問は、じゃ意味がないのかもしれないけれど、言わせてください。再稼働しないとと思ったから移住してきた人もいます、こちらに。あの事故が起きて再稼働しないと移住してきた人もいます。私は、もし再稼働するというならばこの柏崎に住みたくないという思いがあります。そういう形で、人口がどんどん減ってしまうこともあると思います。私、これから移住するってことを考えている人が再稼働する柏崎をわざわざ選ばないと考えます。東電関係の転勤で100人単位、200人、数千人で来るとおっしゃっても、柏崎の人口減少はどうなってしまうのでしょうか。

それと、もう一つなんですけれど、中国よりもCO2を出す割合、石炭とか、そういう燃やすもの、火力発電の割合が日本の方が多いと恥じべきことだとおっしゃっていたんですけれども、やっぱり人口比とか、国土で考えたら私もこのデータがないのでちょっと私の予想なんですけれど、日本の人口と国土と考えたときに、中国よりも圧倒的に少ないと思います。だから日本はこれから原発を使えばいいんだとか、そういうことではないと思います。あとスウェーデンの国民の反対があったけれども、トータルで考えたときに、原発を動かした方がプラスだから新しいのを建てて進めていったっていう話で、じゃあ、ここもいいかとも思うけれども、やっぱり国が違えば、土地も地盤も違うし、地震の状況も違えば、考えも違うのは当然ですから、比較とかはできたとしても、この国がこうだからここも日本もいいよねっていう話にはならないと思います。

なので、市長が再生可能エネルギーにすごく力を入れてらっしゃることもありがたいなと思うし、どうしても原発と一緒に動かしていかなければ成り立たないっていうこともわかるんですけども、風力とかを進めたときにその風力の風車とかを直すのにもすごくお金がかかるし、何が一番いいんだっていう答えはないと思うんですけど、またこの柏崎の原発が事故が起きたときに、あの東電に責任を取ってもらうためにまた新たな原発を作って動かすのようになってきたとき、また、そういう未来が待っているかもしれない

司会：すみません、ご意見まとめていただけますでしょうか。

質問者：ので、原発をこんなことがあっても動かしていかなければならないのでしょうか。以上です。

市長：はい、ありがとうございます。福島から避難されてきたお母さん、そしてお子さんのお話をお聞かせいただきました。私自身、そういったように、そういった避難された方の服等で線量計が振り切れたという話は、私は初めて、ちょっと申し訳ないんですけども、伺うところでありますし、またその方の体調がどうであったのかということはもちろん承知をしておらないところですけども、少なくともこれは先ほど申し上げたように国連の科学委員会のみならず、他の機関においても、この今、ご覧いただいていますように甲状腺疾患、子供さんも含めてがんの遺伝的な影響はないと、もしくは見られそうにないというふうに書いてあるところを、私は信じるところでございます。ここはもう何を信じるかという形でございますので、私自身はこういった部分を考え、信じているところでございます。

それからご質問の方で二つありました。人口減少がある、再稼働するならば柏崎に住まないとか、残念ながら引越さざるを得ないっていうようなことも含めて人口減少でございませんですけども、人口減少、私は、その原子力発電所があるからということで人口が減っているとか、入ってくる人が少なくなるというふうには考えておりません。別の要因だというふうに思っております。全部アンケート調査をしたわけではありませんけども、原発があるから柏崎から出ていく、柏崎に住みたくないという人は、そう多くではないと思っております。いずれにせよ、人口が減っているということは、原子力発電所の問題とは関係なく、柏崎にとって非常に大きい問題でありますので、今、ご心配いただいたことは、やはり頭に置いておきたいと思えます。

それから、他国との比較は、そう簡単にできるものじゃないでしょうということです。それは私もそう思います。ただ、先ほどご覧いただいた割合は、割合ですので、全体の量ではありませんから。確かに中国は、人口も日本のけた違いも多いわけですので、これは割合は、中国よりも日本の方が、発電量の構成比は多いですけども、出しているCO2の量は圧倒的に中国の方がいっぱいです、量は。しかし、今これ、御覧先ほどご覧いただいたのは、電源別の発電の構成比割合でございませので、そこはご理解いただきたいと思います。それからスウェーデンも先ほどご覧いただきましたように、残念ながら国民投票の結果はありますけれども、今の段階で全ての国民も原子力を選択しているということを申し上げたかったという

こととございます。

それから、私書きましたように、地震も当然のことながら、日本の地震の確率というのは、スウェーデンに比べれば高いというのは私も十分承知しております。それからフィンランド、オンカロと言われているオルキオト、いわゆる最終処分場が唯一決まっているところ、それからスウェーデン、それから原発を止めたドイツ、それからフランス、原発を続けるフランス、全部行ってまいりました。桁違いに、日本は地震が多い。逆の言い方をすれば、フランスで地震ってどのぐらいあるんでしょうかと伺いました。伺いましたらば、ありますと。大きい地震ですかって言ったらば、いや、大きい地震か、小さい地震かわからないけども、多分マグニチュード5.2の地震があった。それいつですかって言うふうには伺ったらば、1715年だと。今から300年前にマグニチュード5.2というと、多分震度でいえば3とかそのぐらいのレベルでしょ、それがフランスの実際。つまり、国によって確かにみんな状況は違います。日本は残念ながら、さっき申し上げたようにドイツは石炭がある。けれども原発は止めたけれども、石炭があるんで石炭火力で電気を作っている。これはドイツの事情です。しかし、残念ながら日本には何もない、ほとんど何もないということで、一生懸命、再生可能エネルギーも大きなものにしようとして努力をしていますが、ご覧いただいているように、2030年には再生可能エネルギーを36から38、初めて原子力発電所の割合よりも多くして、再エネをベースロード電源にしたいと、主力電源にしたいというふうに言っていますけれども、残念ながらまだまだ進まないということでございます。そういったことで、国の違いも含めて、私ども、ベストではありませんけれども、ベストではないですけども、今の段階で日本においては原子力発電所は当面の間、一定数、期間も、それから基数も限定しながら使わざるを得ないではないかというのが私の考え方でございます。

司会：〈質問者〉様の意見まとめていただきましてありがとうございます。他の方、はい。すいません、先に向こうの奥の方、はい。

質問者：すいません、〈町名〉の〈名前〉ですけど。私には祈るしかないんですけども、何年無事に稼働することを祈ったら、徐々に確実に減らしていくことができるのかなど。お願いします。

市長：はい、ありがとうございます。何年と言われて私も明確な答えはございませんけれども、私は今、お話しいただきましたように、徐々に確実に減らすと、先ほども書きましたように、7つ全ての再稼働は認めないというふうに東電にも国にも、そして皆さんにもお約束をして当選をさせていただいているわけでございますし、廃炉計画に関しましても、再稼働後2年以内に廃炉計画を出してもらいたいということを申し上げて、東電もそれ了解し、先般も東電の社長に約束は守るという言葉をいただいておりますので、少なくとも再稼働が始まった2年以内にこの廃炉計画というものがしっかりと出されるというふうに考えております。

質問者：出ないパチンコ台にどれだけ注ぎ込むんだというのが企業というのは経費の問題があるが、そのところの見切り時というのを考えたとき、何年稼働したら、無事に何年稼働したら、損益分岐点になるのか。

市長：そういった部分に関しましては、先ほど申し上げましたように、プリントで申し上げたように、今、原子力発電所は40年から60年にその稼働標準期間が延びてきているというところとございますので、この範囲の中でいわゆる損益分岐点といったものを考えというふうに考えております。

司会：〈質問者〉様、ありがとうございます。他の方、先ほどの前の方。

質問者：〈町名〉から来た〈名前〉というものですが、この前、地元でちょっと忙しくてできなかったもので、今日ここに来させてもらいましたが。そうですね、市長は、最初言われたように、なんで東京のために我々は犠牲にならんと駄目だとそういう考えがあります。だから子供はもう柏崎には危ないから居るなど申し渡してあるんで、よそへ出ていきました。この柏崎は、柏刈の地域は、人の命を、生存権さえも否定するようなどころがあります。早く稼働せいといってもまだ、避難道路もできていないうちからと言う市長、首長もいますね。市長もそういう早く稼働した方がいいというお考えですか。この会、やったのも、その、あれを、何て言うかな、これを積み上げて、実績がなくても、はっきり、やっぱその避難計画なんか、何回もやっても、それでどうなったのか、我々のところに全然情報なんかは来ませんし、今回もこれ、規制庁が、避難計画なんかやらんのに、それで計画も何も。それで、市長は何か、これでもって、一つ、その、あれが再稼働の何ていうか、実績を積んだとか、それで、一つ、あまり言う時間ないから、一つお伺いしますが、仮に過酷事故が起きた場合は、市長は市の職員を動員して、救助に当たるとか、そんなこと本当にできるんですか。人権無視も甚だしいと思う。私の爺さんの兄弟は、外国航路の船長やっていたことがあるらしい、ただその時は誤操舵やって船を難破させたら、船長は、船もろともに船と共に運命をともにすると、そういうことだった、幸いにもなかったみたいだけど。今の私の誤操舵ってわかるよね。それで、市長がもし、誤操舵に当たる事例が起きたら、最後までここに残って、市民の全部逃げたのを見てから逃げるなり、運命を共にするなり、そういうことができるのか、それを伺いたい。あんまりいっぱいだと時間ないんだらうから、終わります。

市長：はい、ありがとうございます。いざというときに避難の訓練ばかりしてそれからいろいろな計画ばかりして、要望ばかりしているけれども、実際に事故が起きたときに、職員も含めてしっかりと仕事ができるか、避難誘導し、市民の皆さんを避難誘導できるか、そして最後に市長は責任を取れるのかというところでございますが、結論で申し上げるならば、当然のことながら、私は市長ですので、全員が避難することが適切かどうかはわかりませんが、少なくとも私は、私は、柏崎に残り、市役所に残り、市長として、そのとき、そういったことは想定していませんけれども、そのときには私は市役所の市長として、責任者として残り、指示を出します。

それから訓練、それから計画でございますけれども、先ほど申し上げたように、もちろん100%を全部できてから、再稼働なりすればいいのかもしれませんが、これは原子力発電所の問題だけではなくて、世の中、まあ仕方ねえか、ここまでやったんだからと、これから進むんだからというふうに物事を判断していることはいっぱいあります。いっぱいあります。しかし、原子力発電所はそのリスクも含めると、桁違いにそのリスクは大きいわけですので、私としても慎重に、慎重に、そしていろいろな議会での結論を含めても、今日こうやって、議会では3月21日に請願が可決しました、再稼働を巡る請願が可決しました。16対5で可決しました。しかし、やはり、いろいろなご意見があるだろうということで、改めて私が再稼働GOですというふうな決断をするにしても、今の〈質問者〉様のご意見も踏まえて、こういったご心配の声があったんだということを胸に留めながら、頭に置きながら、判断をさせていただくということでございますので、今ほどの〈質問者〉さんの船長たるもの、市長たるものというお話、お考えもしっかりと頭に置かせていただきたいと思います。

司会：〈名前〉様、大変ありがとうございました。ちょっとお時間になってですね、一応、最後の質問という形にさせていただきます。先に手を挙げられた方。

質問者：〈町名〉在住です。そのとき夜でしたので、昼の会場を探して、こちらに来ました。市長さんに、

市長：お名前を。

質問者：〈名前〉といいます。市長さんにいくつか質問させていただいた後で、私の考えを述べたいと思います。

司会：お時間も来ていますので端的にまとめていただければありがたいと思います。

質問者：この志賀原発が能登半島地震のときに大きな被害があったのですが、東電はそこに現地に行って、視察に行って、どのような報告を市長さんにされましたでしょうか、それをお聞きしてから、意見を述べたいと思います。

司会：すいません質問それでよろしいでしょうか。お時間もありますし、他の方も手を挙げられてますんで、一つの質問ということでご協力いただければというふうに思います。

質問者：わかりました。私は櫻井さん、市長さんの考えに同意はできないが、理解はできました。それで、その市長さんの期待に応えられる東電であるのかということをお聞きしたかったわけです。本当に櫻井さんが、市長さんが信頼に足る東電であるのか、今その体質が問われていると思います。私はその体質を指摘したかったのです。

市長：はい、ありがとうございます。まず、前段の方を少しお話をされた志賀原子力発電所に東京電力が視察をしたのかどうなのかということは、私は少なくとも、報告は受けておりません。また、志賀原子力発電所には、原子力発電所は、大きな損傷はなかったというふうに理解をしております。少なくとも、少なくとも規制庁、規制委員会による大きな損傷といったレベルのものは起こっておりません。一部、外部電源が喪失だとありますし、しっかり他の外部電源が確保されております。そういったことも含めて大きな損傷はなかったという、これは客観的な評価でございます。そしてまた、柏崎刈羽原子力発電所も、今回の地震において大きな損傷はなかったということでもあります。

そして、後段の方のご質問の方に対するお答え、東電の体質といったものをどう考えているかということでもありますけれども、これは私自身も、これはご承知の通り、昨年5月、6月あたりは、6月あたりだったでしょうかね、本当に東京電力という会社は、原子力発電所を動かすことができる会社なんだろうというふうに疑問に改めて思ったこともあります。しかし、その後、東京電力自身も自らの体質というものを認識し、改善を積み重ね、そしてその結果、昨年12月、原子力規制委員会による審査、追加検査も終わって、法的にはOKになったということを含めて、私自身は東京電力も、最善の方向に向かって体制をとりつつある、責任を担える体質に変わりつつあるというふうに考えておりますので、私はあとこれまで以上に、また、実際に再稼働という作業に移る前には、東京電力、また、関連企業そして協力企業を含めて、もう一度、市民、県民、また、国民の心配がある中で動かすんだという認識を含めて、しっかりとした体制の中で臨んでもらいたいというふうに考えておりますし、それはできるというふうに思っております。

司会者：〈質問者〉様、ご意見まとめていただきまして大変ありがとうございました。終了の時間となりましたので、質疑応答につきましてはここまでとさせていただきます。挙手をいただいた方、大変申し訳ございませんでした。また、多くの方からご質問ご意見をいただきまして感謝申し上げます。以上をもちまして柏崎刈羽原子力発電所の再稼働に関する懇談会を終了とさせていただきます。長時間お付き合いいただきまして大変ありがとうございました。